

原木シイタケに発生するシイタケ腐敗病の防除

林業研究部 きのことグループ

1. 研究の背景

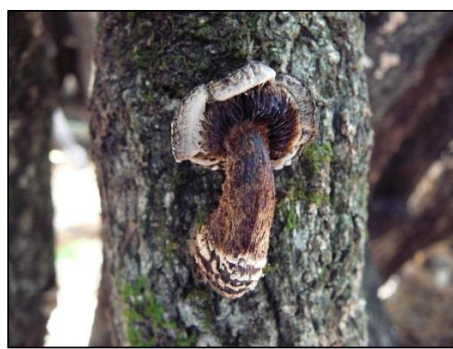
ほだ木上のシイタケ子実体が褐～黒変し、異臭を放って腐敗する病害が散発的に発生している。先行研究では、シュドモナス属菌による細菌病として報告されているが、感染経路や防除方法は検討されていない。きのこグループでは、ほだ場での発生調査、病原の特定および防除方法の検討を行った。

2. 研究成果の内容・普及のポイント

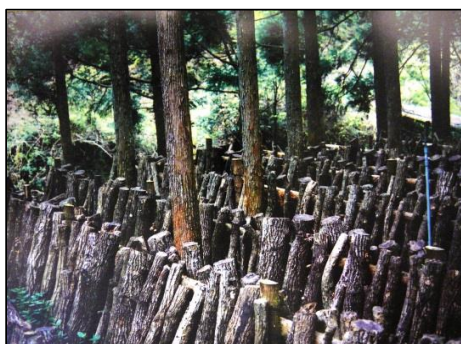
- ①原因菌は「エウイングラ アメリカーナ」で、伏せ込み土壌等のシイタケ栽培環境に広く生息する。
- ②病徴は子実体の褐～黒変、成長停止、異臭を伴う腐敗である。
- ③本病は湿度の高い林内ほだ場や過剰に散水したほだ場に発生しやすい。
- ④激害はシイタケ採取の最盛期に気温が高く、降雨が多い時期に発生しやすい。
- ⑤微害はほだ場に広く見られ、乾燥や低温による成長停止と混同しやすい。異臭の有無で判断できる。
- ⑥本病はこれまでに市販9品種に認められ、気温の高い時期に採取する品種に起こりやすい。
- ⑦腐敗病の発生したほだ木は翌年も症状が見られるが、乾燥した環境で管理すると症状は軽くなる。
- ⑧発病子実体は直接触らず、できるだけ早期に除去し、ほだ場の近くに捨てない。（二次感染防止）



病徴（幼子実体）



病徴（成熟子実体）



激害の発生した多湿環境のほだ場



発病子実体のビニール袋を用いた除去

3. 期待される効果

- ・乾シイタケ生産者の減収要因を軽減できる。
- ・栽培環境の改善による単収の増加や品質の向上が図られる。

4. 担当機関連絡先

林業研究部 きのことグループ
TEL：0974-22-4236
住所：豊後大野市三重町赤嶺2369